

日建発第 324 号
平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

日之影町長 津隈一成



今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼があった、今後の道路行政についての意見・提案の提出について、別紙様式のとおり回答いたします。

本町の中心部を東西に貫通する唯一の218号線は、県北部地域産業・経済にとって重要な幹線道路であると共に、地域住民が医療・福祉・消費生活等において重要な路線であります。

近年、台風の大型化による災害で、道路決壊など国道218号線が寸断された経緯もあり、代替道路の確保も含め、安全で住みよいまちづくりを推進する本町にとって、幹線道路の整備を切に望んでおります。また、本町の国道に繋がる地方道の改良率は、県道20%、町道28%と低水準にとどまり整備が遅れております。

公共交通機関のない地方・中山間地域にとって道路は、生活に密着しており必要不可欠なものであります。必要とされる道路を単に交通量だけで計測するのではなく、水源の涵養、国土保全、災害防止の役目を担っている地方・中山間地があるからこそ、下流域の人々の暮らしが確保できるものでありますので、道路の便益を図る尺度の中に地域活性化のための、基盤整備なども含めるべきではないかと考えます。

今後の道路行政を進める上で、地域の実情に沿った整備や弾力的な運用、歩道幅の設置、1.5車線の道路整備の推進など、道路全般を考える中で高速道路から地方道のあり方を計画的、年次的に整備する必要があると思います。

〈要望・提案〉

- ① 九州横断自動車道延岡線の早急な整備と国道218号線の改良
- ② 地域の状況を把握し、地域の実情に沿った地方道の整備
- ③ 道路整備における都市と地方の格差是正

○ 現状

本町は、山林が92%を占める中山間地域で、人口4,700人高齢化率39.6%の少子高齢化、過疎化の中、国道218号は平成7年に日之影バイパス全線開通、国道218号北方延岡道路が北方ICまで平成20年4月26日に開通しました。このことにより、延岡方面への通勤・通学、買い物、通院などの時間短縮が若干図られたところです。

また、県道、町道は山間地の河川沿い、急峻な急傾斜地を走り、県道6路線管内延長86キロ改良率は約20%、町道は253路線総延長432キロ改良率は約28%であり低水準にとどまっています。

平成17年の台風14号襲来により甚大な被害を被ったTR高千穂鉄道が廃止に追い込まれ、延岡～高千穂間の公共交通機関は、宮交バス路線のみとなりました。地域の交通機関として平成9年10月からへき地患者輸送車、平成15年4月から町立病院路線バスを生活バスとして運行しておりましたが、今年6月から増便を含めて町内115全ての集落を可能な限り運行し、高齢者等の足の確保をする目的で、日之影町コミュニティバスの運行を始めました。

○ 課題

近年の通行車両の増加、大型化に対応するため国道の整備については、安全で円滑な交通の確保をするため改良やゆずり車線等の整備が行われつつありますが、本町では専門的な医療機関を持たないことから、救急医療や産婦人科、小児科診療には延岡方面や熊本方面に行かなければなりません。特に命にかかわる病気や怪我は一刻を争いますので、高速道路等の早期開通が悲願であります。また、産業の活性化や雇用の拡大を図るためには企業誘致をしなければなりません。基本的に高速道路のない自治体には企業誘致は厳しい状況であります。

県道・町道の整備については、高齢者等の足の確保の目的から運行しているコミュニティバスが、離合場所も取れないところやUターンする場所のないところなど点在し、安全なバスの運行が図れない状況にあります。また、本町が施策の柱としている森林セラピー基地への入り込み客のルートの確保、更に1軒の家で車を3・4台保有する本町にとって、町民の日常生活や地域産業振興のため曲折や幅員の狭い道路の早急な整備が望まれています。

また、TR高千穂鉄道の廃止と宮交バス運行の縮小等に伴う高齢者の足の確保に、バス路線までのアクセスする地方道の整備は喫緊の課題であります。

本町は、中山間地の急峻な地形で、少子高齢化、過疎化の中、豊かなふるさとづくりをするため、産業・文化・教育・福祉と、どの分野においても「人」が資源となります。この「人と人との交流」によって本町の活性化が生まれてきます。その繋ぐものが「道路」であると思います。

本町は、恵まれた豊かな森林資源を基盤とする地域づくりを進めるため、農林業や山村文化を含め、自然を活かした「森林セラピー」を活用しながら地域振興を図るなど多くの人々に来町していただき、都市との交流を促進しなければなりません。また、「地域で出来ることは地域で」を合い言葉に、町内を12地区に分け、各地で独自の地域づくりに取り組んでいます。更に、コミュニティバスの運行や公共施設の活用、公共交通機関へのアクセス向上など中山間地域で生活する人々が安全で安心して生活するため、道路の整備は必要不可欠であります。地域住民は、公衆用道路も私道と同じ感覚で道草きりや側溝の掃除、視界の妨げとなる立木の除去作業など道路の維持管理に地域を上げて奉仕の精神で行っております。

このように中山間地域へのアクセス道路を整備することにより、多くの人々に来町していただき、本町の森林セラピーで心と身体を癒し、安全で快適に往来できる環境を目指すべきと考えます。

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
(例) ・横断道延岡線の計画実現と幹線道の改良	町内の妊婦の人たちは専門機関の診察、出産を延岡市、熊本市に依存している。出産前の妊婦が車内で子供を産んだ話はよく耳にする。 また、夜間緊急医療や重大事故についても延岡・熊本への搬送等が頻繁である。このようなことを考えると、幹線道路の整備は不可欠であり、緊急医療施設へのアクセス、市町村の中心部や主要施設相互に連絡する道路の整備は急務である。	地域住民や外からの訪問者など誰もが安心して安全な道路を利用して短時間で目的地への移動が可能となり、生活圏域の活性化が図られる。道路が整備されることで人の流れやスムーズな物流で産業振興、雇用の場の確保が期待される。	沿線自治体、議会、女性の会、地域住民で期成会等を組織し計画実現に向けて活動
・総合的な交通安全対策及び道路環境美化	「12地区協議会」 地域コミュニケーションの活力 山間地域の県道、町道の草刈りや側溝の清掃、視界の妨げとなる立木の除去作業など、地域の公民館が奉仕作業を行っている。	行政で出来なくなっている事を、住民活動としてやってもらうことで連帯感が深まり、道路周辺の環境美化・交通安全の確保に繋がる。	改良整備が進まない地方道は、草刈り事業、1.5車線、待避状設置事業の弾力的運用の推進が望まれる。
□□□□	□□□□	□□□□	□□□□